



ブルキナファソと野球

JICAブルキナファソ事務所

ブルキナファソの現状

ブルキナファソでは近年武装勢力のテロ攻撃により大幅に治安が悪化し、大勢の国内避難民が発生。国内避難民は2022年12月末時点で、当国人口の約9%にあたる188万人以上に達しているとされている。



生活の困窮度が増大



写真: UNHCR撮影

ブルキナファソ国内で、国内避難民受け入れている地域では、土地の地権者やコミュニティ住民の協力の下、多くの国内避難民がホストコミュニティに受け入れられているが、避難生活が長期化し、国内避難民の数も増大するにつれて、限られた土地・水・燃料などの制約の下、生活の困窮度が増大している。

流言飛語により、特定の民族が武装勢力に加担しているのではという流布が飛び交う。

社会に亀裂が生まれかねない状況

ブルキナファソと野球

▶ ブルキナファソの野球実績

<2023年1月現在>

世界野球ソフトボール連盟男子野球ランキング

50位

アフリカ内男子野球ランキング

4位

東京オリンピックアフリカ大陸代表決定戦

ベスト4進出



ブルキナファソでは、
2008年より2017年まで
青年海外協力隊が
ブルキナファソ野球連盟に対して
野球の指導を行っており、
現在でも同協力隊OBとの
つながりを保ちながら
野球普及の取り組みが続いている。

ブルキナファソと野球

サンフォ・ラシィナ選手



写真: 高知ファイティングドックス公式HP

▶ブルキナファソ出身。
野球の独立リーグ、四国アイランドリーグPlusの年間王者を決めるチャンピオンシップ(2022)で、総合優勝した、「高知ファイティングドックス」の選手。

15歳で来日し、21歳で高知ファイティングドックスの主将となる。

ラシィナ選手は、出合さんの教え子

国際協力機構(JICA)の青年海外協力隊員として、2008年から2年間、ブルキナファソに赴任した出合裕太さんが、現地の子どもたちにゼロから指導したのが、きっかけでした。

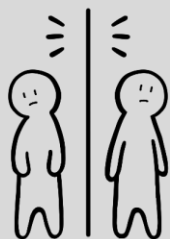


出合裕太さん

平和とスポーツ

スポーツは、言葉・文化・宗教など
社会的背景の異なる人々が一緒に楽しめる。

対立

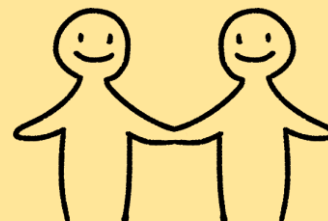


国内避難民と
ホストコミュニティ、民族間の対立



スポーツが
もたらす影響

社会融和



一緒に生活していく上での社
会融和に貢献することが可能

平和とスポーツ

ベースボールファイブ(B5)の普及

ブルキナファソ政府とブルキナファソ野球連盟は、野球、及び、2026年よりユースオリンピックの種目となる野球をコンパクト化した「ベースボールファイブ(B5)」の普及を通じ、平和のための社会融和の実現に貢献することを目指している。



2022年8月には、ブルキナファソ国内で、国内避難民受け入れている中央北部地方のカヤ市で、国内避難民とホストコミュニティに対するベースボールファイブ(B5)の普及を実施。



平和とスポーツ

日本は、スポーツが持つ、人と人をつなぐ特性を活用し、ブルキナファソの平和と安定のため、スポーツを通じた相互理解、コミュニティの融和の促進に取り組む。



▲ 野球道具をブルキナファソ野球連盟に寄贈する加藤大使



▲ 平和とスポーツ_ブルキナファソ野球連盟メンバーと日本関係者

写真:在ブルキナファソ日本国大使館撮影